

「あつまれサッカー好きな子供たち IN 茨城」

福島のサッカー少年が茨城へ

福島県生協連、福島県ユニセフ協会、福島大学災害復興研究所による「福島の子ども保養プロジェクト」が、4月21日、22日の2日間にわたり茨城県水戸市で実施されました。今回子供たちの受け入れに協力したのは、茨城県生協連、JA茨城県中央会などが主体となったプロジェクトチームで、2012国際協同組合年の周知を図る「2012協同組合年茨城県実行委員会」としての連携を生かし立ち上がったものでした。

「保養プロジェクト」では受け入れ側のネットワークを活用したさまざまな催しが用意されますが、今回はサッカーがテーマ。「あつまれサッカー好きな子供たち IN 茨城」と題し、茨城県のJ2所属のプロサッカーチーム・水戸ホーリーホックの選手とコーチによるサッカー教室と、公式戦(ザスパ草津戦)の試合観戦を盛り込まれました。JAグループは、JAバンク茨城が水戸ホーリーホックの活動に協賛してきた経緯があるそうで、そのネットワークを生かした企画だったようです。

福島側は、福島県サッカー協会を通じサッカーチーム単位で応募を受けつけ、福島市の森合サッカースポーツ少年団、郡山市のNPO法人ビアンコーネ福島スポーツクラブ、福島市、郡山市、二本松市のサッカーチームに所属する女子選手の混成チームの3つのチームから、小学1年生から中学2年生まで計56名が参加しました。さらに指導者と保護者の方が12名、福島大学からの学生ボランティア1名、福島県生協連の佐藤一夫専務が同行しました。

21日の朝、福島発、郡山発の2台のバスに乗って茨城県水戸市に向かった一行は、お昼前にはJA茨城県農村研修館に到着。開会式、昼食を済ませると国営ひたち海浜公園に向かい、アスレチックなど外遊びを楽しみました。

夕方6時に茨城県農村研修館に戻り夕食。夕食ではプロジェクトを後援する茨城県畜産農業協同組合連合会が地元の銘柄和牛「常陸牛」を鉄板で焼き、子供たちをもてなしました。その後、入浴後にはビデオの上映なども行われました。

サッカー教室から試合観戦まで盛りだくさん

翌朝は7時頃より動き出し、宿舎の周辺を散歩したり、グラウンドで軽くボールを蹴ったりして子供たちは身体を動かしました。朝食後、バスに乗りケーズデンキスタジアムへ移動。到着後スタジアム内の控え室で着替えを済ませ、すぐそばのグラウンドへ歩いて向かい、10時を少し過ぎた頃、サッカー教室が開始。グラウンドで整列して待つ子供たちの前に、水戸ホーリーホックの選手やコーチングスタッフが登場し1人1人挨拶を行いました。「今君たちが置かれている状況はつらいものだろうけれども、いつかまた笑顔になれる時がくる」「今日は短い時間なので、選手には思い切りぶつかっていくこと。遠慮しないでいいから」などの言葉が子供たちに伝えられました。最初に、子供たちを全年代シャッフルしたグループにわけ、正方形に置かれたコーンの外側をドリブルしパスする練習。回すボールは2つあり、ゆっくりやりすぎていると後ろからおいつかれてしまうので、子供た

ちは一定のペースでボールを蹴り、パスします。なお、各グループには1名選手が付き、一緒にボールを回していきました。サッカー教室はよくひらかれているようで、コミュニケーションはかなり上手。すぐに子供たちの心をつかんでいるように見えました。

それが終わると、ゲーム形式の練習へ。ボールだけでなくゴールも互いに2つという変則的なルールで行われたゲームで、子供たちは「攻守の切り替え」に終始追われていました。1時間半の練習時間はすぐに終わりがきてしまいましたが、子供たちはいつもとは違った経験に笑顔を見せていました、練習終了後は、JAより果物が、水戸ホーリーホックからはチームグッズのプレゼントが渡されました。

サッカー教室が終わると、子供たちは試合観戦へ。ただし、この日は選手グラウンドに入場するエスコートキッズと、フェアプレーフラッグを持って入場するフラッグベアラーという役目も子供たちはまかされており、ホーリーホックの担当者より指導を受け、担当の子供たちは準備に取り組みました。

なお、この日の水戸ホーリーホックとザスパ草津の試合は、2012協同組合年茨城県実行委員会が協賛した「協同組合サンクスマッチ」。福島からの参加者の入場チケットやサッカー教室は協賛に対する特典を利用したもの。茨城県生協連の古山専務によれば、協賛金には主にJA茨城中央会に届いた震災義援金を活用しているそうです。

中学生の女子選手6名がフラッグベアラーを、森合SSSとピアンコーネ福島の子供たちがエスコートキッズを無事務めると、13時に試合開始。子供たちはスタンドに戻り準備されたお弁当を食べながら試合を楽しみました。ベガルタ仙台の試合を見たことがあるという子供もいましたが、多くは生で試合を見るのは初めてとのことでした。試合は前半36分に水戸が先制し、その1点を守りきり見事勝利。試合終了の笛がなると、サッカー教室の“先生”たちのチームの勝利に子供たちは歓声をあげ喜んでいました。



試合の行方を真剣な表情で見つめる子どもたち。

試合終了後、子供たちはピッチ上で閉会式を行い、バスに乗りそのまま福島へ。なお茨城での保養プロジェクトは第2回を今年夏に、第3回を秋に予定しているそうです。